

# 令和6(2024)年2月 就職先(学校・企業等)へのアンケート結果

## 1 目的

今後の教育活動改善等に活用すること

(卒業生の状況把握、就職先の評価、本学の教育等について把握する)

## 2 対象

令和4(2022)年3月及び令和5(2023)年3月卒業生が就職した事業所 …… 196事業所

(回答 140事業所)

(対象の卒業生…222名 (大学…134名 短大…133名))

## 3 実施期間

令和6(2024)年1月17日(水)～2月16日(金)

## 4 実施方法

依頼：郵送

回答：郵送、GoogleForms(併用)

## 5 回収率

72.5%(下表のとおり)

表

	対象者	回答数	回収率
四大 教育福祉学部	134	94	70.1%
短大 ライフデザイン学科	88	67	76.1%
計	222	161	72.5%

### 【参考】前年度

対象者	回答数	回収率
156	110	70.5%
106	85	80.2%
262	195	74.4%

### 一般企業、福祉施設等

	対象者	回答数	回収率
四大 教育福祉学部	66	36	54.5%
短大 ライフデザイン学科	48	32	66.7%
計	114	68	59.6%

対象者	回答数	回収率
95	58	61.1%
59	43	72.9%
154	101	65.6%

### 学校、園等

	対象者	回答数	回収率
四大 教育福祉学部	68	58	85.3%
短大 ライフデザイン学科	40	35	87.5%
計	108	93	86.1%

対象者	回答数	回収率
61	52	85.2%
47	42	89.4%
108	94	87.0%

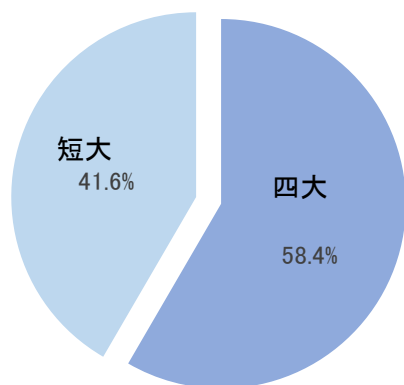
## 6 その他

① 当該アンケートは、平成26(2014)年度から実施。

② 前年度の実施にあたり設問の大幅な見直しを行っている。



### 設問1 対象となる卒業生について

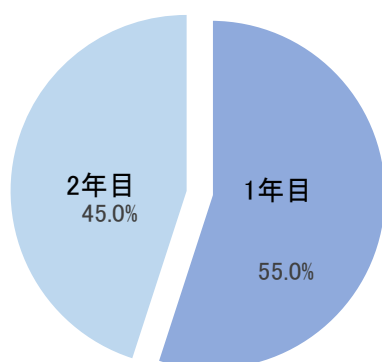


1	四大	58.4%
2	短大	41.6%

#### 【参考】前年度

1	四大	56.4%
2	短大	43.6%

### 設問2 入社(職)時期について



1	令和4(2022)年4月…1年目	55.0%
2	令和3(2021)年4月…2年目	45.0%

#### 【参考】前年度

1	四大	50.3%
2	短大	49.7%

### 設問3 在職状況について

四大	在職	休職中	退職
令和5(2023)年4月… 1年目 (分母…56)	54 96.4%	1 1.8%	1 1.8%
令和4(2022)年4月… 2年目 (分母…38)※	36 94.7%		2 5.3%
計 (分母…94)	90 95.7%	1 1.1%	3 3.2%

※前年度調査による退職把握 … 5名

短大	在職	休職中	退職
令和4(2022)年4月… 1年目 (分母…32)	31 96.9%	1 3.1%	
令和3(2021)年4月… 2年目 (分母…35)※	32 91.4%	1 2.9%	2 5.7%
計 (分母…67)	63 94.0%	2 3.0%	2 3.0%

※前年度調査による退職把握 … 2名

#### 【参考】前年度

四大	在職	休職中	退職
令和4(2022)年4月… 1年目 (分母…53)	48 90.6%		5 9.4%
令和3(2021)年4月… 2年目 (分母…57)※	45 78.9%	1 1.8%	11 19.3%
計 (分母…110)	93 84.6%	1 0.9%	16 14.5%

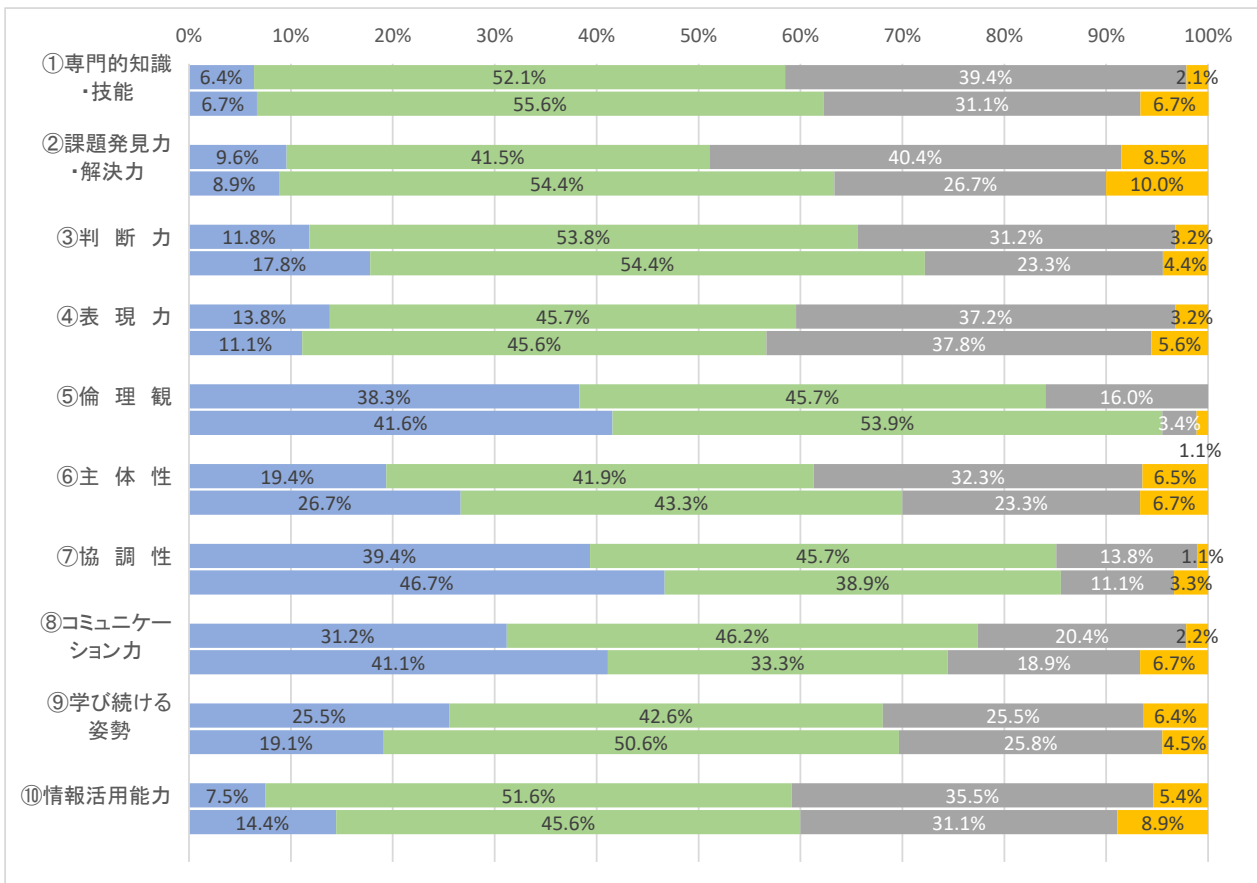
※前年度調査による退職把握 … 1名

短大	在職	休職中	退職
令和4(2022)年4月… 1年目 (分母…45)	41 91.2%	2 4.4%	2 4.4%
令和3(2021)年4月… 2年目 (分母…40)※	35 87.5%		5 12.5%
計 (分母…85)	76 89.4%	2 2.4%	7 8.2%

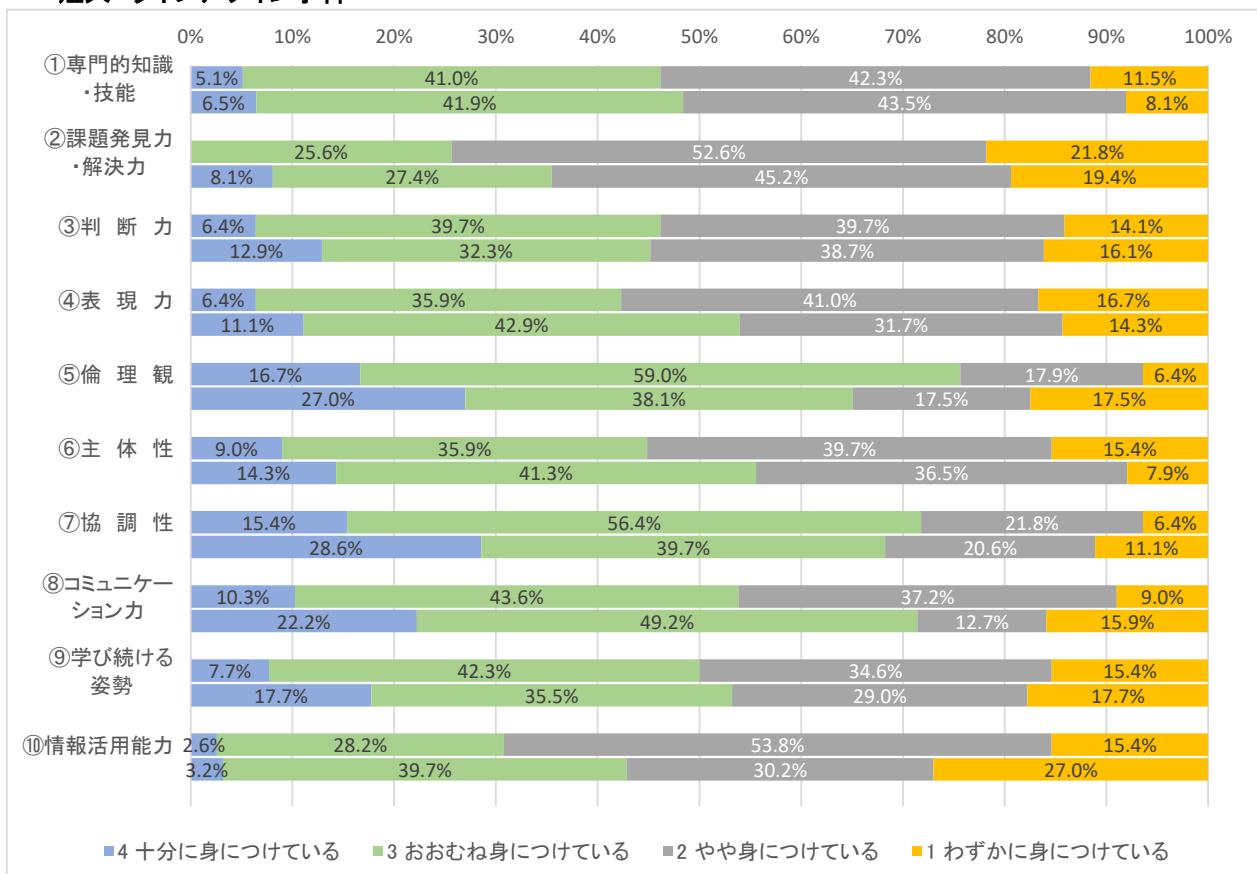
※前年度調査による退職把握 … 4名

設問4 対象の卒業生について、以下の10項目をどのように評価されていますか。

四大 教育福祉学部



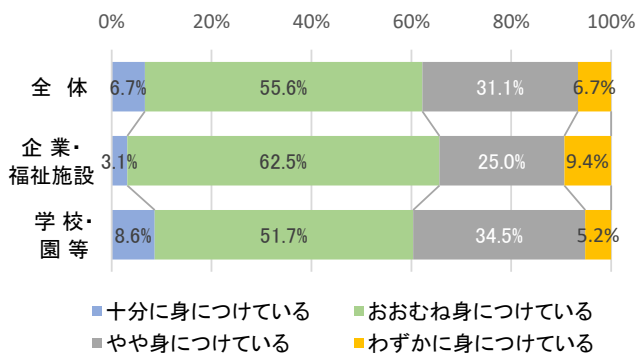
短大 ライフデザイン学科



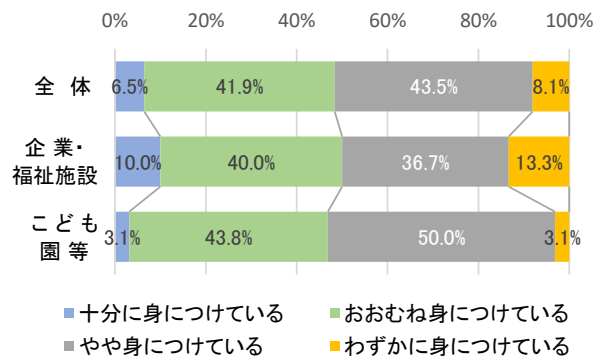
各項目とも、上段が前回(2023年2月)下段が今回(2024年2月)調査の結果

## 設問4 各設問の内訳

### ① 仕事を進めていく上で必要な、専門的知識・技能

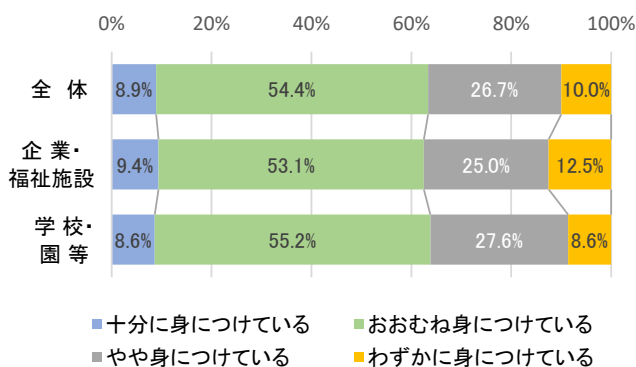


四大 教育福祉学部

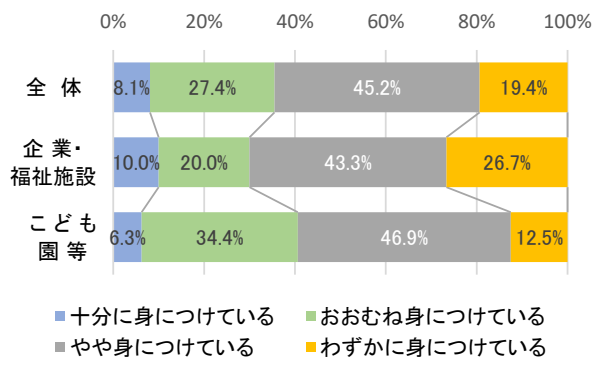


短大 ライフデザイン学科

### ② 課題を発見し、解決する力

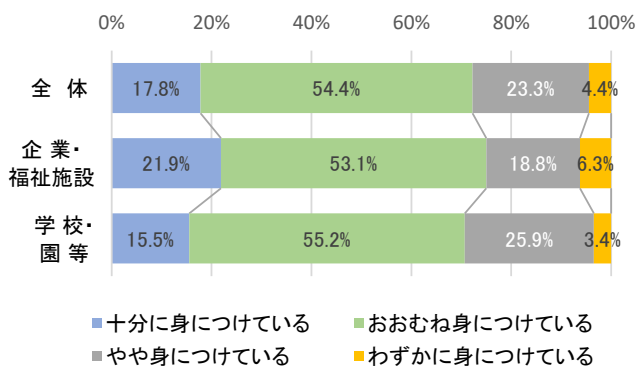


四大 教育福祉学部

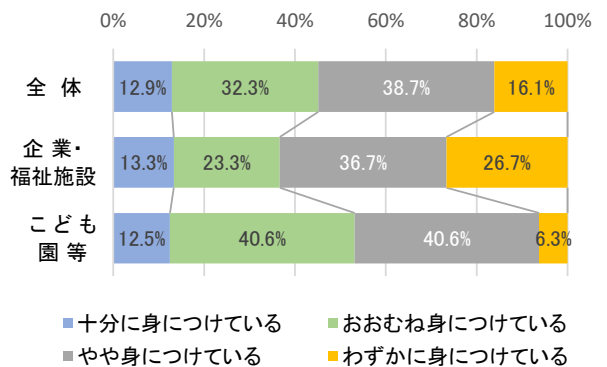


短大 ライフデザイン学科

### ③ 正しい情報をもとに判断する力

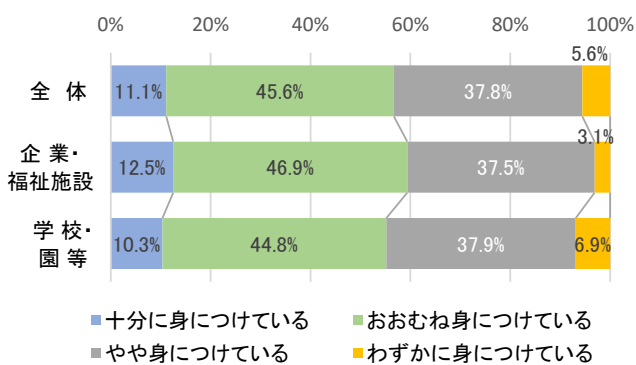


四大 教育福祉学部

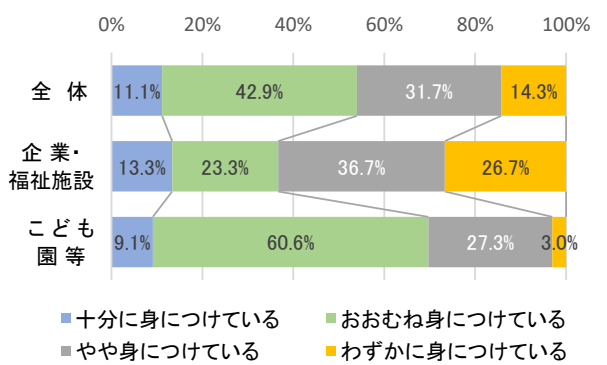


短大 ライフデザイン学科

### ④ 表現力(自分の考えや意見をわかりやすく相手に伝える力)

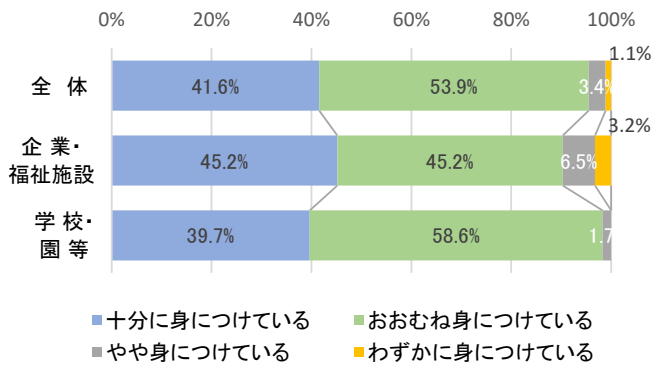


四大 教育福祉学部

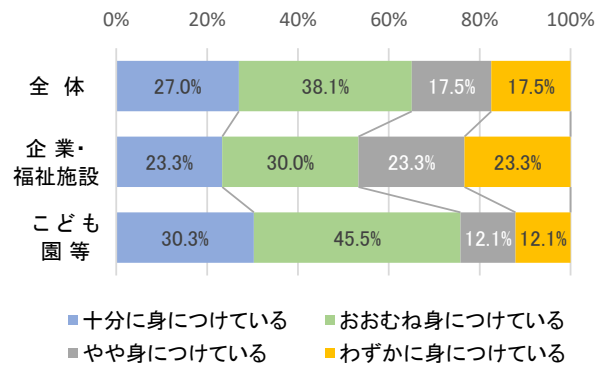


短大 ライフデザイン学科

⑤ 倫理観(社会規範やルールに従って行動する力)

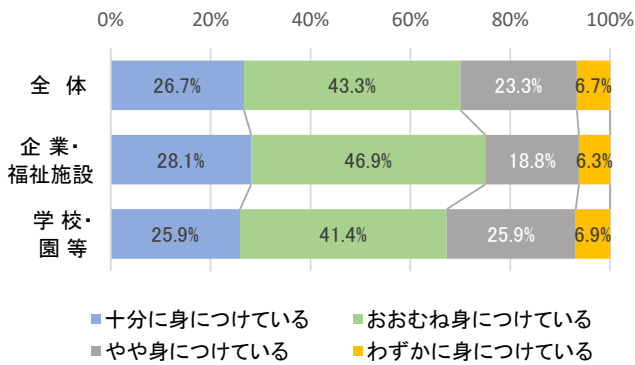


四大 教育福祉学部

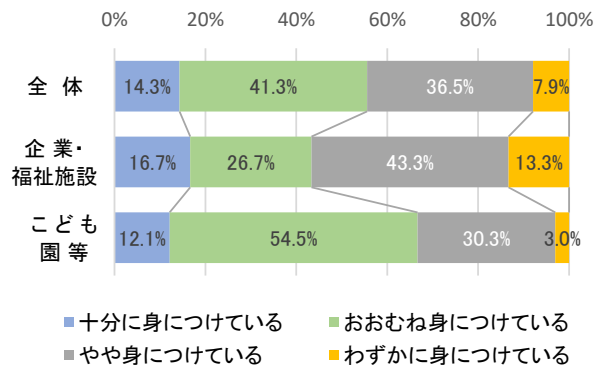


短大 ライフデザイン学科

⑥ 主体性(自ら進んで物事に取り組む力)

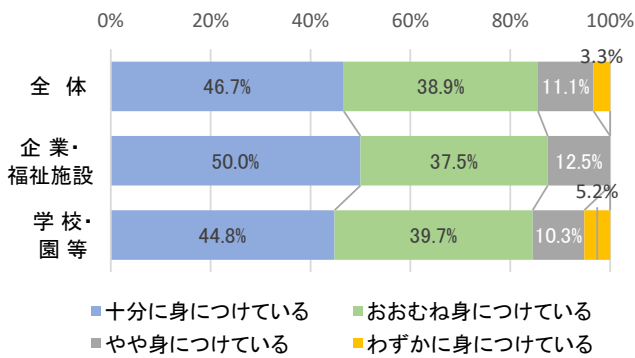


四大 教育福祉学部

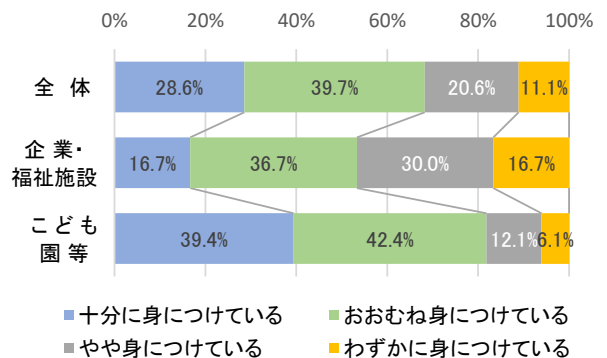


短大 ライフデザイン学科

⑦ 協調性(他者と協調・協働して行動する力)

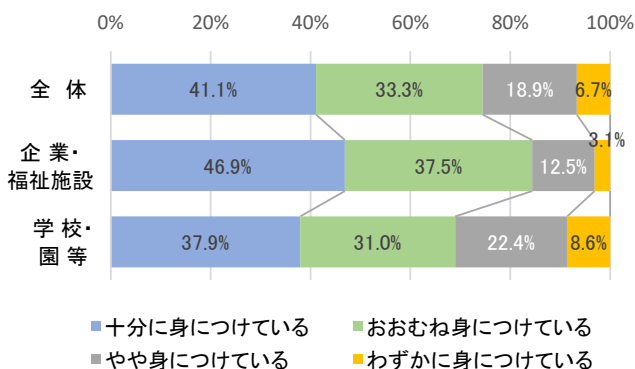


四大 教育福祉学部

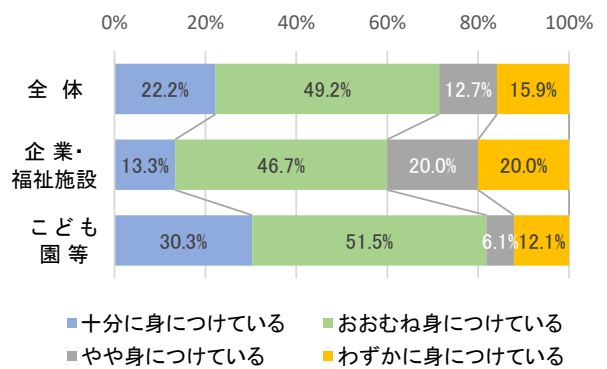


短大 ライフデザイン学科

⑧ コミュニケーション力(様々な他者と円滑な関係を構築する力)

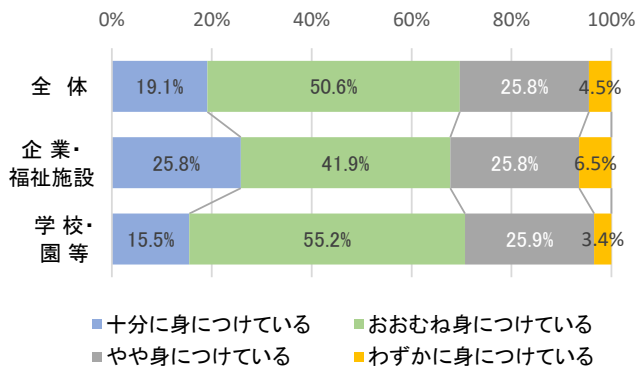


四大 教育福祉学部

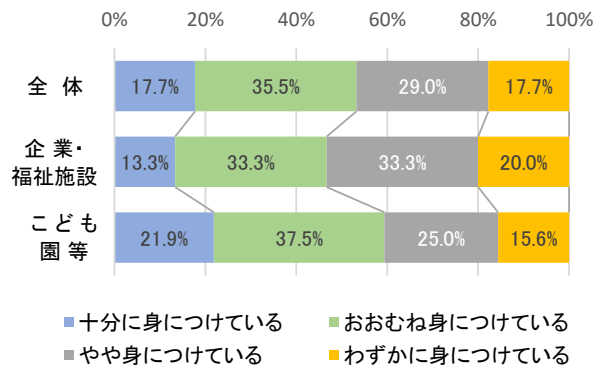


短大 ライフデザイン学科

⑨ 学び続ける姿勢（与えられた課題だけでなく、自立・自律して学習できる力）

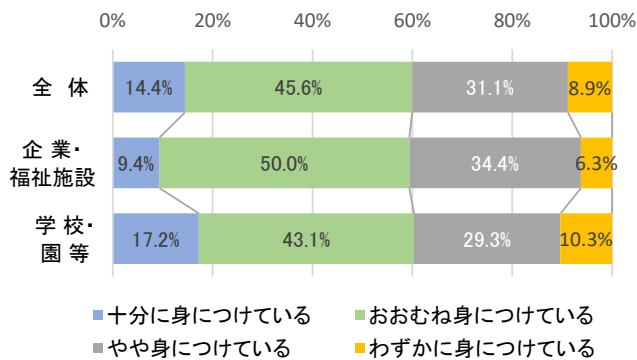


四大 教育福祉学部

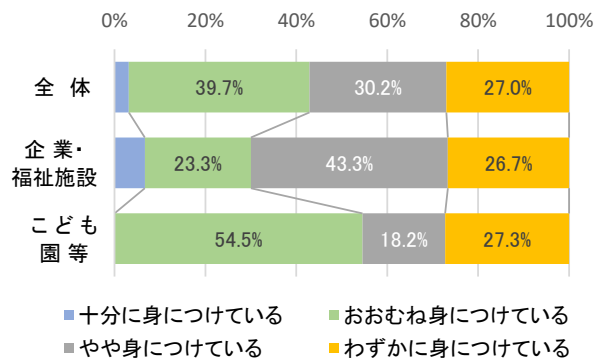


短大 ライフデザイン学科

⑩ 情報活用能力（多様な情報を収集・分析して、効果的に活用する力）

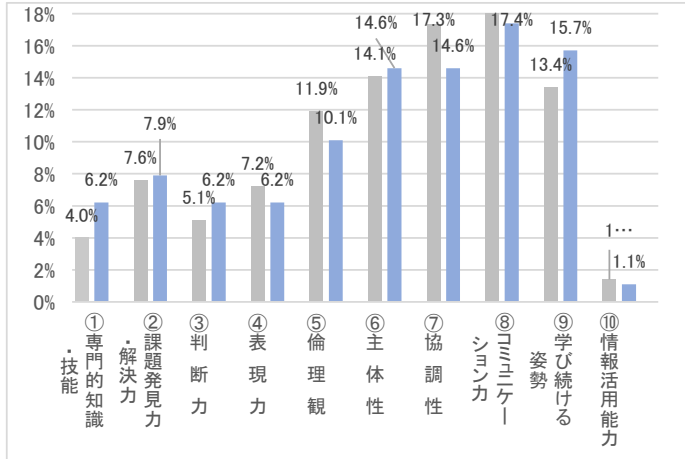


四大 教育福祉学部

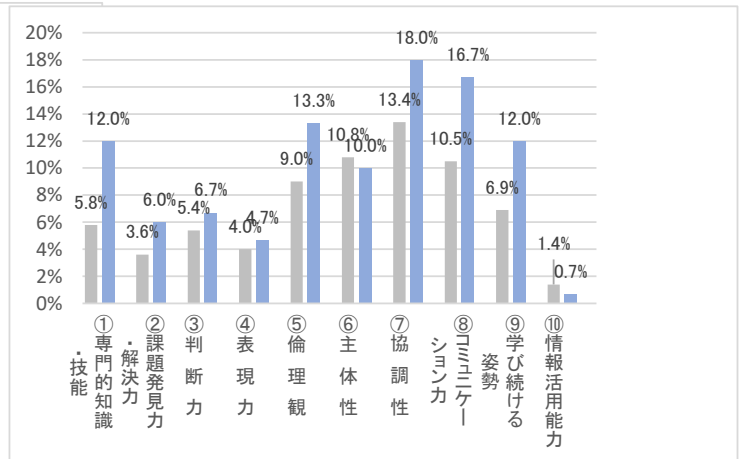


短大 ライフデザイン学科

設問5 10項目の内、採用にあたって特に重視される点をお聞かせください。最大5つ（順不同）



四大 教育福祉学部



短大 ライフデザイン学科

設問6 採用にあたって、上記以外で重視される項目（自由記述）

- ・挨拶・態度
- ・柔軟性
- ・明朗快活であるかどうか
- ・主体的に学びに向かう姿勢
- ・物事をはきはき発信できること
- ・相手の目を見て話せること、上手下手関係なく聞かれたことに対して話せる力
- ・人と関わる仕事なので、人としての優しさを重視している。その他、介護観や価値観も聞かせてもらう。
- ・法人の方向性を理解し、業務に取り組む。他職員との共同での業務で出来る。
- ・社会で一人だちするうえでの社会性及び一般常識
- ・国家資格取得が必須の業務内容のため、零細時間も活用して継続的に勉強できる忍耐力
- ・当社ではアルバイトスタッフを多く雇用しており、アルバイトをコントロールできるリーダーシップを新卒者にも求める。
- ・採用後、数多くの指導員資格試験を受けて頂くことになるため、資格取得に積極的に取り組む意欲も重視する。
- ・挨拶ができる人
- ・心身ともに健康である人
- ・人柄・笑顔
- ・本人の主体性
- ・接遇力（入社後それを身に付ける資質があるか）
- ・リーダーシップ
- ・健康である
- ・長く働いてくれること
- ・社会性と継続性

## 令和6(2024)年2月 就職先(学校・企業等)へのアンケート 総括

平成26(2014)年度から卒業生が就職した事業所(学校・園・福祉施設・企業等)にアンケートを実施しています。回答結果をより教育改善等に活用するため、前回実施分から設問を大きく変更しました。多くの事業所の皆さまにご協力いただき、今回も70%以上の回収率がありました。キャリア支援委員会を中心にした分析結果を以下に示します。

過去のアンケートにおいて「誠実さ」「思いやり」「協調性」の評価が高い特徴があり、アンケート様式を変更した前回は、四大・短大ともに「⑤倫理観」「⑦協調性」「⑧コミュニケーション力」の3項目について高い評価を頂きました。また、今回も前回同様に当該3項目に高い評価を頂きました。

アンケートにご回答頂いた事業所(就職先)は教育(学校・園)・福祉施設・企業等様々ですが、この評価は共通した傾向で、真面目な学生の気質に加え、小規模大学で学生と先生が深く関わり学びあう本学の良さ、学生1人ひとりを大切にする本学の教育成果を示していると見えています。

ただ、高い評価を頂いた項目の中にも気になる点があります。「⑤倫理観」に関する設問で、四大・短大ともに「4.十分に身につけている」の割合が増えた一方、短大では「1.わずかに身につけている」の割合がそれ以上に増えました。特に、企業・福祉施設でその傾向が見られます。「⑦協調性」「⑧コミュニケーション力」の設問でも短大では二極化が進む傾向が見られ、本学の強みを継続させるために今後も注意深く見守る必要があります。

全体的に設問4の10項目のうち、「4.十分に身につけている」と「3.おおむね身につけている」を加えた割合が前年より四大で8項目、短大で7項目増加したこと、卒業生の退職率が大幅に改善されていること等から、就職先で活躍する卒業生が増えつつある状況が想像できます。

設問4の10項目については、(学校・園)と(福祉施設・企業)に分けて結果を出しています。四大の結果に大きな差は見られませんが、短大では複数項目(④表現力⑤倫理観⑥主体性⑦協調性⑧コミュニケーション力⑩情報活用力)において大きな差が生じています。前回調査時に大きな差は無かったため就職1年目の卒業生の影響が予想されましたが、結果は1年目2年目に関係なく厳しい評価がある状況が確認できました。コロナ禍で何かと制限が多い学生生活を送った世代ではあることを差し引いても、今後は少しでも差が改善できるよう、在学生の教育・支援をしていくことが必要になります。もちろん「①専門的知識・技能」「②課題発見力・解決力」をはじめ、四大においても厳しいご指摘を複数頂いていますので、これらの情報を教職員で共有することも大切です。

本学で学んで良かったと感じていただける卒業生を1人でも増やすこと、1人でも多くの卒業生が社会で活躍してくれることが教職員の願いですが、その実現のために優先順位を決めて対応する必要があります。

最後に、本調査の実施にあたって、回答に協力いただいた皆さんにお礼申し上げます。

今後とも引き続きよろしくご協力申し上げます。